

大阪公立大学×大阪市博物館機構 博学連携事業

全国同時七夕講演会 2024

「アマテラス粒子」の検出 ～宇宙でもっとも高いエネルギー をもつ粒子の謎

2024年 8月24日 (土)

13:30～15:30 (開場13:00)

大阪市立科学館 研修室 (地下1階)

参加費 無料



講師 藤井 俊博

大阪公立大学大学院理学研究科 准教授
(物理学専攻 宇宙・高エネルギー物理学講座 宇宙線物理学研究室)
南部陽一郎物理学研究所 兼任研究員

大阪公立大学 中百舌鳥キャンパスでも
「七夕講演会・観望会」を開催します!

日程：2024年7月12日 (金)
会場：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス
問い合わせ先：大阪公立大学 大学院理学研究科 電波天文学研究室
TEL 072-254-9726

全国同時七夕講演会 2024

2009年にガリレオ・ガリレイが世界で初めて望遠鏡を宇宙に向けてからちょうど400年になることを記念し、国際連合・ユネスコ・国際天文連合はこの年を「世界天文年」と決めました。それにちなんだ企画として始まった「全国同時七夕講演会」は、毎年多くの方々にご参加いただき、主催者にとっても楽しい講演会となっています。ご来場をお待ちしております。

「アマテラス粒子」の検出 ～宇宙でもっとも高いエネルギーをもつ粒子の謎

■講師：藤井 俊博 大阪公立大学大学院理学研究科 准教授 / 南部陽一郎物理学研究所 兼任研究員
(物理学専攻 宇宙・高エネルギー物理学講座 宇宙線物理学研究室)

■講演概要：わたしたちの身の回りには、「宇宙線（うちゅうせん）」と呼ばれる高エネルギーの粒子がふりそいでいます。1912年に発見されたこの宇宙線は、わたしたちが生まれるはるか昔、太陽や地球ができる前から存在していました。これまでの一世紀をこえる観測研究から、宇宙線の中には地球では実現できない、10の20乗電子ボルトをこえるきわめて高いエネルギーをもつ「極高エネルギー宇宙線」が存在していることが明らかになりました。極高エネルギー宇宙線が、どこでどのように生まれ、地球にやってきたかについては明らかになっておらず、宇宙における最大の謎のひとつとなっています。本講演では、宇宙線の謎について説明し、北半球最大の実験装置であるテレスコープアレイ実験、そして史上最大級のエネルギーをもつ宇宙線「アマテラス粒子」について説明します。

■日時：2024年8月24日（土）13:30～15:30（開場 13:00）

■会場：大阪市立科学館 研修室（地下1階）

■対象：内容は中学生以上を対象としていますが、どなたでも参加できます。

■定員：80名（定員を超えた場合は抽選）

■参加費：無料

■申込方法：下記のいずれかの方法でお申し込みください。

※重複してお申し込みがあった場合、2回目以降は無効とします。



会場へのアクセスは「大阪市立科学館」のWebサイトをご覧ください。

<https://www.sci-museum.jp/info/access/>

<Webサイト> 【申込締切：7月31日（水）】

大阪公立大学 生涯学習・公開講座Webサイト ▶ [大阪公立大学 公開講座](#) 🔍 検索

※お申し込み後24時間経っても申込完了メール（自動返信）が届かない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

※携帯キャリアメールを使用する場合は、「omu.ac.jp」のドメインからのメールを受信できるよう設定してください。

<往復はがき> 【申込締切：7月31日（水）必着】

①住所 ②氏名（ふりがな） ③年齢 ④連絡先電話番号 を記入し、返信面に返信先住所・宛名をご記入のうえ、下記宛先までお送りください。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪公立大学地域連携センター「全国同時七夕講演会2024」係

こちらからも
申込できます



★★注意事項★★

- ・定員を超えた場合は抽選により参加者を決定します。
- ・参加の可否は2024年8月9日（金）までにメール通知または返信用はがき郵送にてお知らせします。
- ・感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・開催内容等が変更となる場合があります。
- ・お申込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

【問い合わせ先】 大阪公立大学 地域連携センター

TEL：06-6605-2068（平日 9:00～17:00） MAIL：gr-shak-kouza4c@omu.ac.jp

主催 公立大学法人大阪 大阪公立大学、地方独立行政法人 大阪市博物館機構 大阪市立科学館、公益社団法人 日本天文学会

共催 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

後援 日本学術会議、日本プラネタリウム協議会